

金農高卒業生らが開発

ヒルよけスプレー発売

市内などで来月から



金足農高卒業生らが開発し、6月に販売されるダウンヒル

吸血生物・ヤマビルの生態を研究する金足農業高校（秋田市金足）の卒業生らが開発したヒルよけスプレー「ダウンヒル」が商品化され、6月に発売されることが決まった。同校の元教諭で、開発を指導した田中大介・総合研究大学院大学（愛知県）特任助教らが16日、県庁を訪れて佐竹敬久知事に成果を報告した。

動物や人の血が栄養源のヤマビルは、同市や五城目、井川岡町などの山林や住宅地に

生息し、例年6～8月に山菜採り客が血を吸われるなどの被害が発生している。金足農高では、田中さんと生徒有志が2009年からヒルの生態調査やヒルよけの薬剤開発に取り組み、翌10年にダウンヒルの特許権を申請。昨年3月に認められた。

ダウンヒルの成分は、冷たさや清涼感を感じる化合物・レメントールなど。登山や畑仕事の前に靴へ吹き付ければ、ヤマビルを近づけない効果が得られる。県を通じて依頼を受けた秋田市の香水店・パレアンヌ（中田邦子代表）が製造、販売やパッケージ

ジデザインを担当。外箱やラベルには登山する女の子をあしらった親しみやすさを狙った。

この日は田中さんのほか、金足農高卒業生で県立大3年の加藤愛咲さん、パレアンヌ

代表の中田さんが佐竹知事を訪問。昨年の特許取得の際にも報告を受けていた佐竹知事は「商品化は大きな成果。全国でも愛用者が増えてほし

い」と喜んだ。現在も大学でヤマビルの生態を研究している加藤さんは「スプレーは何度も試作や実験を繰り返して、効果を確かめた。ぜひ使ってみてほしい」と話した。

ダウンヒルは50ミリ入りで1350円。秋田市泉のパレアンヌ店舗などで販売する。問い合わせは同店☎018・874・9883

（佐藤辰）



佐竹知事（手前）に商品化を報告する（左から）中田さん、田中さん、加藤さん